

千葉県勝浦市鵜原理想郷の陸棲等脚類 (甲殻亜門：フクロエビ上目：等脚目)

奥野淳児

千葉県立中央博物館分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾 123

E-mail: okuno@chiba-muse.or.jp

要 旨 千葉県勝浦市鵜原理想郷において採集された陸棲等脚類を検討した結果、少なくとも8科9種が分布していることが明らかになった。このうち、Agnaridae のヒナワラジムシ属の1種 *Agnara* sp. は、形態的にはマダラサトワラジムシ *Agnara pannuosa* (Nunomura) およびオボロハヤシワラジムシ *A. nebulosa* (Nunomura) に類似するが第7胸脚や第1腹肢の形態の異なる別種であり、少なくとも国内には一致する種が見当たらない。本報告が本属等脚類としては千葉県初記録である。ヒメワラジムシ科のニッポンヒイロワラジムシ *Littorophiloscia nipponensis* Nunomura は、千葉県では重要保護生物に選定されており、勝浦市からは初記録となる。ハマダンゴムシ科のハマダンゴムシ *Tylos granuriferus* Budde-Lund は、館山市塩見に次いで県内では2例目の記録となる。

キーワード： 陸棲等脚類，ワラジムシ亜目，ハマダンゴムシ亜目，鵜原理想郷，千葉県勝浦市。

陸棲等脚類とは、フクロエビ上目等脚目に属する種のうち、海岸の飛沫帯から森林、都市部の緑地、民家のまわりなどの陸域に生息する甲殻類の総称であり、ワラジムシ亜目とハマダンゴムシ亜目がこれに含まれる。わが国から知られている陸棲等脚類はこれまでに150種を越えているが（齋藤ほか，2000），実際にはその多様性はさらに高く，分類学的研究が進めば2倍にあたる300種に達するものと推察されている（布村，1999a）。千葉県に分布する陸棲等脚類は，石井（1995，1999）および Nunomura（2004）によって報告されており，これまでのところ11科22種が知られている。

千葉県勝浦市にある千葉県立中央博物館分館海の博物館では，平成11年3月の開館以降，同館から徒歩10分ほどの所に位置する鵜原理想郷（Fig. 1）において定期的なモニタリング調査を行っている。これは，同館周辺の自然の様子を紹介する展示が常設展示の中に組み込まれていることや，鵜原理想郷において観察会などの教育普及活動を行っているためである。その調査の一環として陸棲等脚類の採集を行ったところ，これまでに8科9種を確認することができた。本研究によって，鵜原理想郷は面積的には狭いものの，これらの甲殻類が生息するのに適した多様な環境を持つことが示唆され，千葉県から属レベルで報告されていない Agnaridae のヒナワラジムシ属の1種 *Agnara* sp. が発見された。また，本県レッドデータブックでは重要保護生物に選定されているヒメワラジムシ科のニッポンヒイロワラジムシ *Littorophiloscia nipponensis* Nunomura, 1986 と，県内ではこれまでに館山市塩見

からしか知られていなかったハマダンゴムシ科ハマダンゴムシ *Tylos granuriferus* Budde-Lund, 1885 が勝浦市内にも生息していることが明らかになった。さらに，フナムシ科のフナムシ *Ligia exotica* Roux, 1828 とコシビロダンゴムシ科のトウキョウコシビロダンゴムシ *Venezillo obscurus* (Budde-Lund, 1885) は，千葉県内の各地から報告されていたが，勝浦市内からの記録は本研究が初めてである。

材料および方法

調査地点の概要

鵜原理想郷（Fig. 1C）は，千葉県勝浦市の海岸線のうち松部から鵜原にかけて発達するリアス式海岸の中で最も西に位置する明神岬とその周辺を示す名称で，周囲約1.5kmになる。そのほとんどは波の侵食によって断崖となり，複雑な海岸線を呈している（田中，1998）。ここには海岸から尾根にかけて容易に移動できる遊歩道が整備され，手弱女平（Taoyamedaira）や毛戸岬（Kedo-misaki）などの標高50m程にあるいくつかの高台と，毛戸浦（Kedo-ura）やゴトガエリ（Gotogaeri）などの小さな砂浜海岸との行き来が容易にできるようになっている。尾根にはヤブニッケイやトベラ，マサキによる照葉樹林が形成されている。また，毛戸浦から内陸部に向かった所に粟島神社（Awashima Shrine）があり，その社の周りは湿潤なタブノキ林となっている。

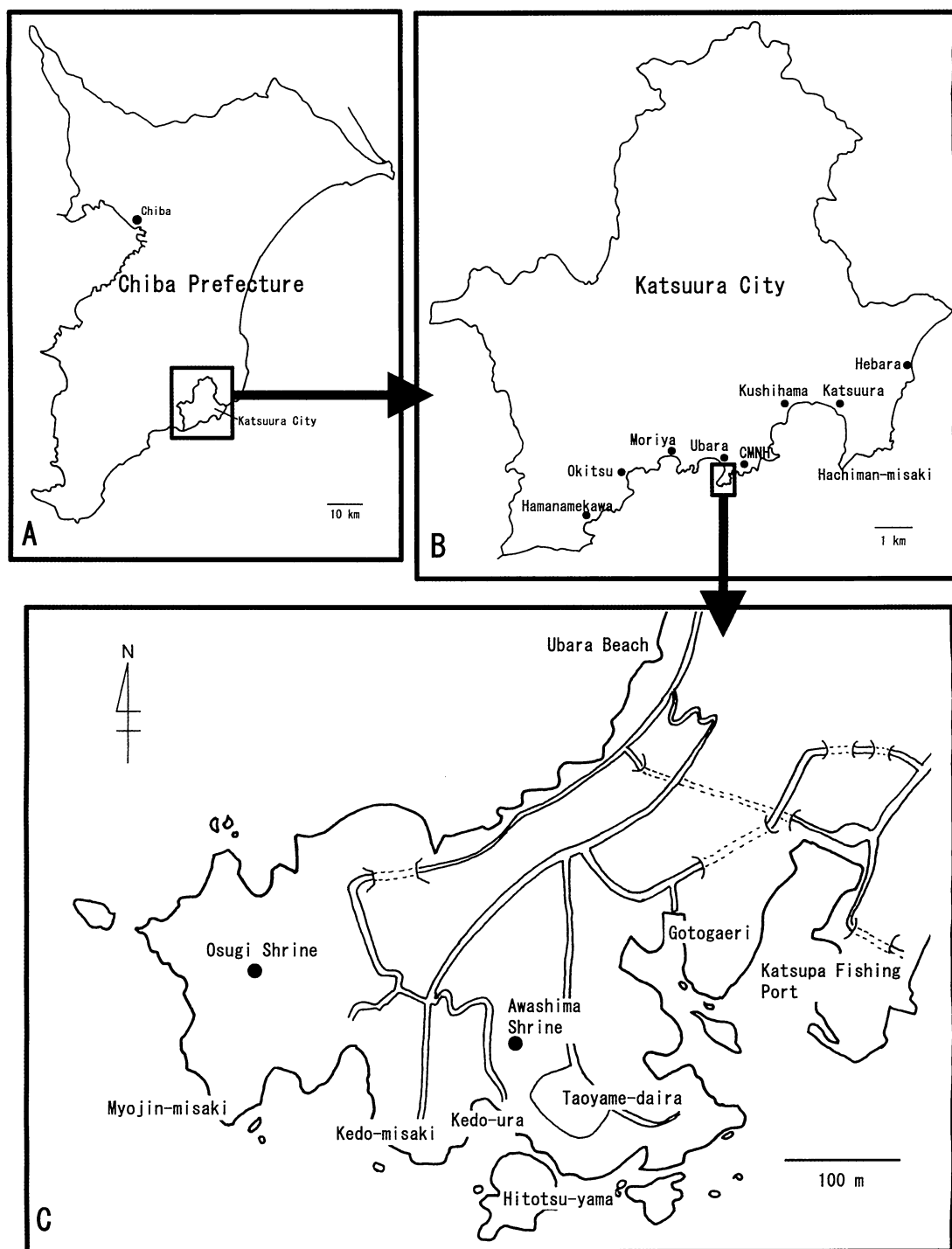


Fig. 1. Map showing the locality of this study. A, Chiba Prefecture; B, Katsuura City. CMNH indicates the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba; C, Ubara Utopia (Ubara-risokyo).

標本の採集、観察ならびに保管

鵜原理想郷における陸棲等脚類の採集は、2006年6月から2010年9月にかけて、のべ15日間行った。本研究で検討した標本は、海岸の転石下や遊歩道脇のリター下などにいる個体を目視で確認し、小型の園芸シャベルなどですくい上げて採集した。標本は白体（偽気管）の観察をしやすいように10%ホルマリン水溶液で固定して同定した後、保存液を70%エタノール水溶液に交換して計測を行った。標本の大きさは頭部先端の中心から腹尾節末端の中心までを実体顕微鏡（LEICA MZ12）下で計測した体長で表し、文中ではBLと略した。調査した標本は千葉県立中央博物館 分館海の博物館甲殻類資料（CMNH-ZC）として登録・保管されている。

種の記録

ワラジムシ亜目 Oniscoidea
フナムシ科 Ligiidae

フナムシ
Ligia exotica Roux, 1828
(Fig. 2)



Fig. 2. *Ligia exotica* Roux, 1828. Living individuals at Gotogaeri, Ubara Utopia, 22 June 2006. Photo by J. Okuno.

調査標本. CMNH-ZC 02273, 2 ♀♀, BL 14.0, 26.6 mm, ゴトガエリ, 2007年6月16日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02278, 2 ♀♀, BL 20.7, 24.7 mm, 毛戸浦, 2007年6月19日, 奥野淳児採集.

分布. 汎世界的に知られており、日本での分布は青森県から鹿児島県の大隅諸島までとされている（布村, 1999b）.

備考. 鵜原理想郷をはじめとする勝浦市内の岩礁海岸ではごく普通に見られるが、本種の標本に基づいた勝浦市からの記録は、今回が初めてである。千葉県では他に千葉市、鴨川市、南房総市ならびに館山市からの記録がある（Nunomura, 2004）.

ニホンヒメフナムシ（ヤマフナムシ）
Ligidium japonicum Verhoeff, 1918

調査標本. CMNH-ZC 02274, 4 ♂♂, 2 ♀♀, BL 5.2–7.7 mm, 栗島神社付近の階段, 2007年6月16日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02279, 1 ♀, BL 7.6 mm, 栗島神社付近の階段, 2007年6月19日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02288, 2 ♂♂, 4 ♀♀, BL 3.9–7.8 mm, 栗島神社付近の階段, 2007年9月2日, 奥野淳児採集.

分布. 北海道、本州、四国から知られている（布村, 1999b）.

備考. 本種の勝浦市におけるこれまでの記録は、石井（1995, 1999）による内陸部（市野郷と小羽戸）から

の報告がある。千葉県では他に旭市、千葉市、八街市、市原市、長南町、富津市、君津市、鋸南町、大多喜町、鴨川市、南房総市ならびに館山市から記録されている（石井, 1995, 1999; Nunomura, 2004）。鵜原理想郷では、湿潤な林が形成されている栗島神社付近に多産するが、それ以外の場所ではこれまでのところ見つからない。

タマワラジムシ科 Alloniscidae

ニホンタマワラジムシ
Alloniscus balssi (Verhoeff, 1928)

調査標本. CMNH-ZC 02060, 1 ♂, 1 ♀, BL 5.4, 7.0 mm, 毛戸浦, 2006年6月22日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02275, 1 ♂, BL 7.7 mm, 毛戸浦, 2007年6月16日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02280, 1 ♂, BL 7.2 mm, ゴトガエリ, 2007年6月19日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02381, 2 ♂♂, 3 ♀♀, BL 6.1–9.6 mm, 手弱女平, 2008年10月18日, 奥野淳児採集.

分布. 新潟県・福島県から鹿児島県の大隅諸島までの飛沫帯を中心に、時に海岸林などの陸域から知られている（布村, 1999b）.

備考. Nunomura（2004）は本報告と同じ勝浦市鵜

原から本種の雄 1 個体、雌 7 個体を記録している。千葉県では他に銚子市、旭市、鋸南町、鴨川市、南房総市ならびに館山市から記録されている (Nunomura, 2004)。本種は海浜性のワラジムシで、鶴原理想郷では特に毛戸浦のハマダイコンやイソギクなどの植生帯の転石の下、および手弱女平に植樹されたヤブツバキのまわりのリター下で多く見られた。

ヒメワラジムシ科 Philosciidae

ニッポンヒイロワラジムシ

Littorophiloscia nipponensis Nunomura, 1986

調査標本. CMNH-ZC 02404, 10 ♂♂, BL 2.4–3.1 mm, ゴトガエリ, 2010 年 4 月 30 日, 奥野淳兒採集。

分布. 北海道から九州にかけての岩礁または砂利の自然海岸に分布する (Nunomura, 1986; 千葉県環境部自然保護課, 2000)。

備考. 本種の勝浦市内からの記録は、本報告が初めてである。千葉県ではこれまでに銚子市、鴨川市、南房総市、ならびに館山市から記録がある (千葉県環境部自然保護課, 2000; Nunomura, 2004)。本種は千葉県のレッドデータブックで「カテゴリー B 重要保護生物」に選定されており (千葉県環境部自然保護課, 2000)、島根県、鳥取県、山口県でも情報不足としてはあるが、保護の必要な生物に指定されている (齋藤, 2008)。しかしながら、勝浦市では、鶴原理想郷ばかりでなく人頭大のゴロタ石が堆積する海岸で比較的普通に見られる。

Agnaridae

ヒナワラジムシ属の 1 種

Agnara sp. (Fig. 3)

調査標本. CMNH-ZC 02204, 1 ♀, BL 3.8 mm, 尾根の歩道, 2006 年 11 月 21 日, 奥野淳兒採集; CMNH-ZC 02281, 1 ♀, BL 5.7 mm, 栗島神社付近の階段, 2007 年 6 月 19 日, 奥野淳兒採集; CMNH-ZC 02383, 1 ♀, BL 6.0 mm, 尾根の歩道, 2008 年 10 月 18 日, 奥野淳兒採集; CMNH-ZC 02384, 1 ♂, BL 3.7 mm, 尾根の歩道, 2008 年 10 月 18 日, 奥野淳兒採集; CMNH-ZC 02387, 2 ♀♀, BL 5.0, 5.1 mm, 尾根の歩道, 2009 年 12 月 1 日, 奥野淳兒・中村裕明・酒田カウ子採集; CMNH-ZC 02405, 1 ♀, BL 5.5 mm, 尾根の歩道, 2010 年 4 月 30 日, 奥野淳兒採集。

分布. 現在のところ、千葉県勝浦市の鶴原理想郷からしか知られていない。

備考. このたび調査した 7 個体のうち, CMNH-ZC

02204 と CMNH-ZC 02281 の雌 2 個体を富山市科学博物館の布村 昇氏に調べていただき、その時点では雄の標本が得られていなかったため暫定的ではあるが、本種がヒナワラジムシ属 *Agnara* Budde-Lund, 1908 に含まれることをご教示いただいた。その後、雄 1 個体 (CMNH-ZC 02384) を含む 5 個体の追加標本を調査することができた。本種は以下のような形態的特徴を示す: 体の断面は半円形; 頭部の前縁は頂部がまるみを帯びたゆるやかな三角形で、前側縁は平たく、顕著に突出する (Fig. 3A, B); 各胸節の背板に備わる剛毛はすべて側縁部に近い; 第 2 触角の鞭状部は 2 節からなり、末端節は基節の 3 倍には達しない (Fig. 3C); すべての腹肢に白体 (偽気管) を有する; 第 7 胸脚の座節には顕著なくぼみはない (Fig. 3D); 第 1 腹肢外肢は先細りとなり、外縁の中央から先端にかけての半分は弱く波打つ (Fig. 3E)。生時には、体は淡灰色で淡褐色の斑紋が縦縞を形成するように並び、第 2 触角は暗褐色を呈することから、肉眼で見ると体と第 2 触角の白黒のコントラストが明瞭である。

本種は、雄の第 1 腹肢外肢の外縁が弱く波打つことによって (Fig. 3E), Nunomura (1987) が石川県から *Protracheoniscus pannuosus* として記載し、その後ヒナワラジムシ属に移動された (布村, 1999a), マダラサトワラジムシ *Agnara pannuosa* (Nunomura, 1987) に類似する。しかしながら、鶴原理想郷産の種では第 7 胸脚が太くて短く、座節に顕著なくぼみを欠くこと (Fig. 2D) でマダラサトワラジムシと識別される。また、本種は第 1 腹肢外肢が先細りとなることによって、Nunomura (2000) が東京都千代田区の皇居から *Lucasioides nebulosus* として記載し、その後 Yamaki et al. (2009) によりヒナワラジムシ属に移されたオボロハヤシワラジムシ *Agnara nebulosa* (Nunomura, 2000) にも類似する。鶴原理想郷産の種では、同肢の外縁が弱く波打つこと (Fig. 2E) でオボロハヤシワラジムシとは異なる。以上のように、国内では形態的に一致する種が見当たらないが、外来種である可能性を考慮し、海外の同属他種と比較した上で本種の分類学的位置付けを決定することが望まれる。

なお、千葉県からのヒナワラジムシ属の記録は今回が初めてとなり、関東地方に分布する本属等脚類としては、オボロハヤシワラジムシに次いで 2 種目となる。

ワラジムシ科 Porcellionidae

ワラジムシ

Porcellio scaber Latreille, 1804

調査標本. CMNH-ZC 02284, 1 ♂, BL 10.7 mm, 鶴原理想郷駐車場, 2008 年 5 月 21 日, 奥野淳兒採集。
分布. 世界中に分布し、日本でも本州の都市部を中心

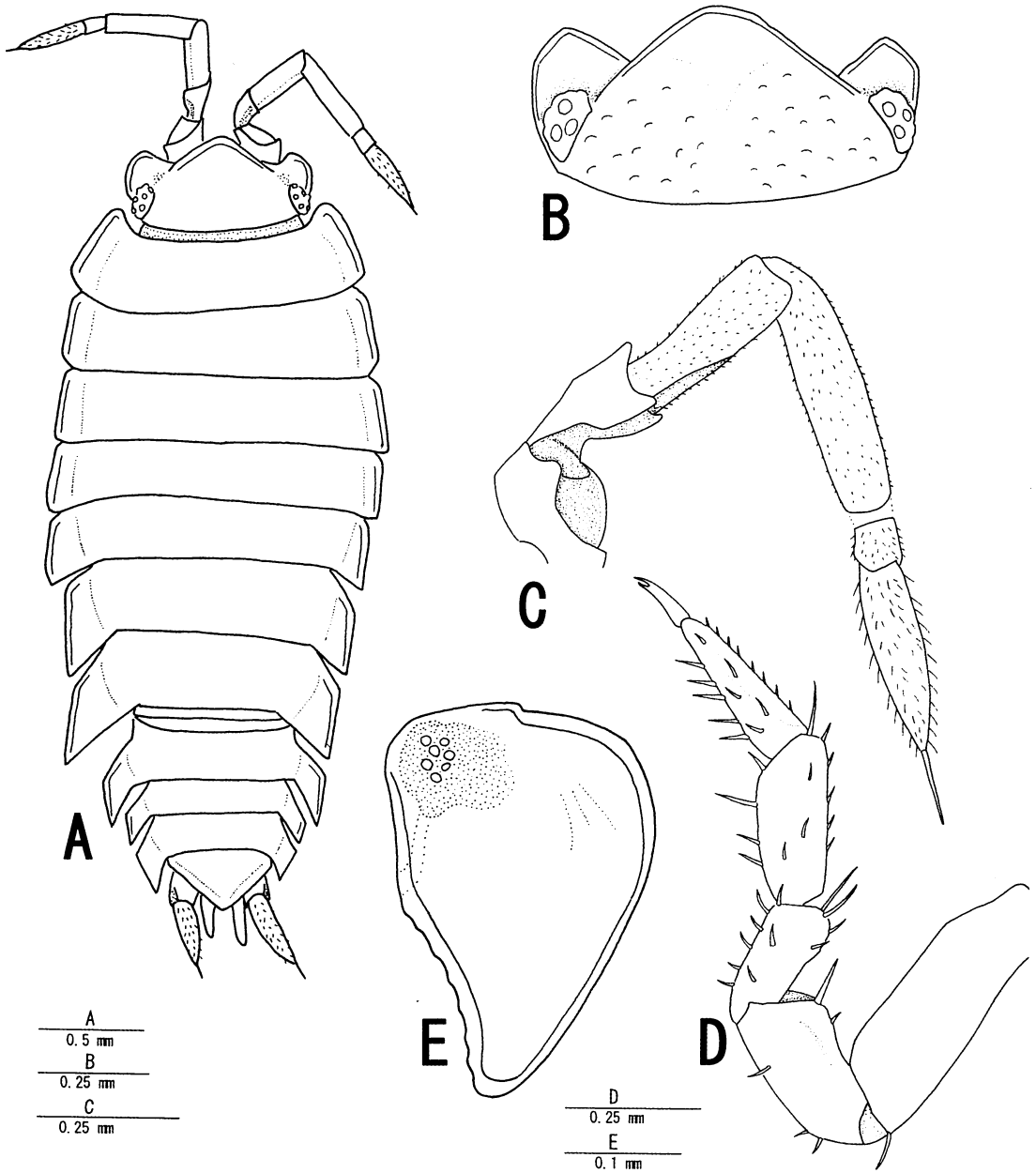


Fig. 3. *Agnara* sp. CMNH-ZC 02384, ♂, BL 3.7 mm. A, entire body, dorsal; B, cephalon, dorsal; C, right second antenna, dorsal; D, right seventh pereiopod, frontal; E, exopod of right first pleopod, ventral.

に多産する。

備考. 本種は日本全国で極めて普通に見られる外来種で、千葉県でもほぼ全域から記録されている（石井, 1995, 1999; Nunomura, 2004）。本種の勝浦市におけるこれまでの記録は、Nunomura (2004) による八幡岬お

よび興津からの報告がある。鵜原理想郷では遊歩道に入る手前のアスファルトで舗装された駐車場で1個体が確認されているのみで、理想郷内ではまだ見つかっていない。

オカダンゴムシ科 Armadillidiidae

オカダンゴムシ
Armadillidium vulgare (Latreille, 1804)

調査標本. CMNH-ZC 02061, 2 ♂♂, BL 15.0, 15.6 mm, 毛戸浦付近の階段, 2006 年 6 月 22 日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02382, 2 ♀♀, BL 9.0, 9.7 mm, 手弱女平, 2008 年 10 月 18 日, 奥野淳児採集.

分布. 世界中に分布し, 日本でも本州以南の都市部を中心に多産する.

備考. 本種は日本全国で極めて普通に見られる外来種で, 千葉県でもほぼ全域から記録されている(石井, 1995; Nunomura, 2004). 本種の勝浦市におけるこれまでの記録は, Nunomura (2004) による興津からの報告がある. 鶴原理想郷ではそれほど多くなく, これまでに観察された個体数は次に挙げるトウキョウコシビロダンゴムシよりも少ない.

コシビロダンゴムシ科 Armadillidae

トウキョウコシビロダンゴムシ
Venezillo obscurus (Budde-Lund, 1885)

調査標本. CMNH-ZC 02062, 2 ♂♂, 2 ♀♀, BL 5.1–7.2 mm, 鶴原海水浴場付近のトンネル, 2006 年 6 月 22 日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02276, 5 ♂♂, 1 ovig. ♀, BL 3.9–6.6 mm, ゴトガエリ附近の階段, 2007 年 6 月 16 日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02277, 1 ♂, 2 ♀♀, BL 5.8–6.3 mm, 尾根の歩道, 2007 年 6 月 16 日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02282, 2 ♂♂, 1 ♀, BL 4.1–7.3 mm, 尾根の歩道, 2007 年 6 月 19 日, 奥野淳児・芳賀智恵美採集; CMNH-ZC 02385, 1 ♂, BL 8.3 mm, ゴトガエリ附近の階段, 2008 年 10 月 18 日, 奥野淳児採集.

分布. 本種の分布は関東地方に限られている(布村, 1999b).

備考. 本種の勝浦市内からの記録は, 本報告が初めてである. 千葉県ではこれまでに銚子市, 東庄町, 佐原市, 佐倉市, 市川市, 四街道市, 千葉市, 八街市, 鴨川市ならびに館山市から記録されている(Nunomura, 2004). 本種は日本産陸棲等脚類のうち, 最初に記載された種で(布村, 1999a), そのシナイトプスのうちの 1 個体はドイツのフンボルト大学自然史博物館, 2 個体はデンマークのコペンハーゲン大学動物学博物館に保管され, 現存している(Jeppesen, 2000). 本種は標準和名に「トウキョウ(東京)」の名を冠するが, そのタイプ産地は類似するセグロコシビロダンゴムシ *V. dorsalis* (Iwamoto, 1943) と同じ神奈川県横浜であるため(Budde-Lund, 1885; 岩本, 1943; Jeppesen, 2000), タイプ標本の再調査を含めた両種の

再検討が必要と思われる.

ハマダンゴムシ亜目 Tyloidea
ハマダンゴムシ科 Tyllidaeハマダンゴムシ
Tylos granuriferus Budde-Lund, 1885
(Fig. 4)

調査標本. CMNH-ZC 02283, 97 juvs., 毛戸浦飛沫帯, 2007 年 9 月 2 日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02285, 3 ♀♀, BL 15.0–17.4 mm, 毛戸浦飛沫帯, 2008 年 5 月 21 日, 奥野淳児採集; CMNH-ZC 02386, 3 ♀♀, BL 10.0–13.6 mm, 毛戸浦飛沫帯, 2008 年 10 月 18 日, 奥野淳児採集.

分布. 北海道から琉球列島までの日本各地の海岸ならびにロシア東部から知られている(Budde-Lund, 1885; Nunomura, 1990; Schmalzfuss, 2003).

備考. 本種は, 千葉県ではこれまでに館山市塩見から報告されているだけであった(Nunomura, 2004). 勝浦市からの本種の記録は今回が初めてであり, 県内では 2 番目の生息場所の記録となる. 鶴原理想郷の毛戸浦では, 検討した標本以外にも多数の個体が観察されているが, 勝浦市内のその他の浜では今のところ見つからない. なお, Budde-Lund (1885) による原記載には, インドネシアのボルネオ島も産地に挙げられているが, これが真正の *Tylos granuriferus* のものかどうかは疑わしいとされている(Schmalzfuss, 2003).

謝 辞

ヒナワラジムシ属の 1 種の標本を快く調べて下さり, 貴重な示唆を賜った富山市科学博物館の布村 昇前館長に深く感謝の意を表する. 文献の入手に便宜を計つ



Fig. 4. *Tylos granuriferus* Budde-Lund, 1885. Living individual at Kedo-ura, Ubara Utopia, 15 September 2010. Photo by J. Okuno.

て頂いた国立科学博物館の小松浩典博士に深謝する。千葉県立中央博物館分館海の博物館上席研究員の中村裕明氏、同館体験交流員（当時）の芳賀智恵美氏、ならびに同館ボランティアの酒田カウ子氏は標本の採集にご協力いただいた。記して御礼申し上げる。有益なご助言を下された2名の査読者に、深甚の謝意を表する。

引用文献

- Budde-Lund, G. 1885. Crustacea Isopoda Terrestria per familias et genera et species. 319 pp. Hauniae, Sumtibus Auctoris.
- 千葉県環境部自然保護課（編）. 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-動物編. 438 pp. 千葉県.
- 石井規雄. 1995. 千葉県の土壌節足動物. *In* 日本生物教育会第50回全国大会（千葉大会）記念誌作成部（編）, 新版千葉県の生物, pp. 152-170. 日本生物教育会第50回全国大会実行委員会, 千葉市.
- 石井規雄. 1999. 千葉県の土壌節足動物. *In* 千葉県生物学会（編）, 千葉県動物誌, pp. 1188-1202. 文一総合出版, 東京.
- 岩本嘉兵衛. 1943. 日本産陸棲等脚類. 植物及び動物 11 (12): 17-32.
- Jeppesen, P. 2000. Catalogue of terrestrial isopod taxa and type material described by Gustav Budde-Lund (Crustacea: Isopoda). *Steenstrupia* 25: 221-265.
- Nunomura, N. 1986. Studies on the terrestriol isopod crustaceans in Japan III. Taxonomy of the families Scyphacidae (continued), Marinoniscidae, Halophilosciidae, Philosciidae and Oniscidae. *Bull. Toyama Sci. Mus.* (9): 1-72.
- Nunomura, N. 1987. Studies on the terrestriol isopod crustaceans in Japan IV. Taxonomy of the families Trachelipidae and Porcellionidae. *Bull. Toyama Sci. Mus.* (11): 1-76.
- Nunomura, N. 1990. Studies on the terrestriol isopod crustaceans in Japan V. Taxonomy of the families Armadillidiidae, Armadillidae and Tylidae, with taxonomic supplements to some other families. *Bull. Toyama Sci. Mus.* (13): 1-58.
- 布村 昇. 1999a. 日本産陸生等脚目甲殻類 (Isopoda) の分類学的位置の変更について. *Edaphologia* (62): 81-91.
- 布村 昇. 1999b. ワラジムシ目（等脚目）. *In* 青木淳一（編）, 日本産土壌動物-分類のための図解検索, pp. 569-625. 東海大学出版会, 東京.
- Nunomura, N. 2000. Terrestrial isopod and amphipod crustaceans from the Imperial Palace, Tokyo. *Mem. Natn. Sci. Mus.*, Tokyo (35): 79-97.
- Nunomura, N. 2004. Isopod crustaceans in Chiba Prefecture, central Japan. *Bull. Toyama Sci. Mus.* (27): 15-25.
- 齋藤暢宏. 2008. 「稀少動物」に指定されている日本産甲殻類. *海洋と生物* 30 (5): 695-706.
- 齋藤暢宏・伊谷 行・布村 昇. 2000. 日本産等脚目甲殻類目録（予報）. 富山市科学文化センター研究報告 (23): 11-107.
- Schmalfuss, H. 2003. World catalog of terrestrial isopods (Isopoda: Oniscidea). *Stuttgar. Beitr. Natur. Ser. A (Zool.)* (654): 1-341.
- 田中助夫. 1998. 鵜原海岸, 理想郷の崖地・海中公園・八坂神社の森. *In* 千葉県生物学会（編）, 千葉県自然観察ガイド, 97 コース+9 トピックス, pp. 140-141. たけしま出版, 流山市.
- Yamaki, A., M. T. Ito, and T. Kikuchi. 2009. Reassignment of *Lucasioides nebulosus* to *Agnara* (Crustacea: Isopods: Oniscidea) and redescription of the species. *Spec. Div.* 14 (3): 207-215.

(2010年6月30日受理)

Terrestrial Isopod Crustaceans collected from Ubara Utopia, Katsuura, Boso Peninsula, Japan

Junji Okuno

Coastal Branch of Natural History Museum
and Institute, Chiba
123 Yoshio, Katsuura 299-5242, Japan

Total nine species belonging to eight families of the terrestrial isopod crustaceans are recorded on the basis of the specimens collected from Ubara Utopia (Ubara-risokyo), Katsuura, Pacific coast of Boso Peninsula, Honshu, Japan: *Ligia exotica* Roux, 1828 (Ligiidae); *Ligidium japonicum* Verhoeff, 1918 (Ligiidae); *Alloniscus balssi* (Verhoeff, 1928) (Alloniscidae); *Littorophiloscia nipponensis* Nunomura, 1986 (Philosciidae); *Agnara* sp. (Agnaridae); *Porcellio scaber* Latreille, 1804 (Porcellionidae); *Armadillidium vulgare* (Latreille, 1804) (Armadillidiidae); *Venezillo obscurus* (Budde-Lund, 1885) (Armadillidae), and *Tylos granuriferus* Budde-Lund, 1885 (Tylidae). Seven specimens referred to an unidentified species of *Agnara* Budde-Lund, 1908 represent the first record of this genus from Boso Peninsula. This unidentified species (*Agnara* sp.) is morphologically allied to *A. pannuosa* (Nunomura, 1987) and *A. nebulosa* (Nunomura, 2000), but could not be identified with any known congeneric species from Japan. *Tylos granuriferus* represents the second record of the species from the peninsula. *Littorophiloscia nipponensis* is listed in the Red Data Book of Chiba Prefecture, but is not uncommon on the rocky coast of Ubara Utopia.